

## 今日のみことば

### □ 1月28日(日) ヨシュア記 13章

ここにはカナンの土地の分配について述べられている。まだ征服は完成していなかったが、年老いたヨシュアはその征服完了を期して、土地分配の必要を感じました。

### □ 1月29日(月) ヨシュア記 14章

斥候のエピソードの(民数13-14)の後も45年、カレブはゆるぎない信仰を持っていました。主はカレブに、あの時約束された土地を与えられました。

### □ 1月30日(火) ヨシュア記 15章

ユダ族の相続地はカレブの地を包含していた。またエルサレムとその一部も包含していた。しかし、エルサレムはまだ征服されていなかった。

### □ 1月31日(水) ヨシュア記 16章

ヨセフ族への土地の割り当てが述べられているが、すぐにそれは、エフライムとマナセ半部族に分割されたが、その地はパレスチナの中央にあった。

### □ 2月1日(木) ヨシュア記 17章

マナセ族の領土は、エフライム族の北に割り当てられた。マナセ族がヨルダン川の東西に領地を得ることができたのは、それは民数記26:28-34と27:1-11の続きとして理解される。

### □ 2月2日(金) ヨシュア記 18章

全会衆はヘブル最初の聖所が設けられたツロに移り幕屋を建てた。まだ領地が定まっていない七部族のために、土地のだいたい測量が始められた。

### □ 2月3日(土) ヨシュア記 19章

シメオン部族、イッサカル部族、アシェル部族、ナフタリ部族、ダン部族に土地が当てがわれ、そしてヨシュアに一つの土地が与えられました。

---

ろ ぼ No. 1852  
2018年 1月28日  
日本バプテスマ 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

イエスが語られた言葉の一つひとつは、私たちがしっかりと心得て聞くべき、大切な言葉です。バプテスマのヨハネとの間で交わされたこの言葉は、イエスが誰であるかを、私たちに銘記させられるのです。

マタイ 3:15  
イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこでヨハネはイエスの言われるとおりにした。

イエスが、悔い改めのバプテスマを施していたヨハネを訪ねて、バプテスマを受けたいと願われたイエスの願いを、ヨハネは拒みました。イエスがどなたであるかを知っているヨハネにとっては、それはあり得ないことでした。そこでイエスは「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」と言われました。これがメシヤたるイエスが語られた言葉です。新しい聖書協会共同訳によるならば

「正しいことをすべて行うのは」の句は「なすべきことをすべてするのは」となっています。ほんとうにイエスが、ご自分をどのように自覚されていたかを、私たちはしっかりと確認をさせていただくことです。私はこのお方をしっかりと見つめ、その言葉を生きるなら、どのようなことの中にあっても不安はないと信じています。

このイエスの行為は、人の罪を担う苦難のしもべとしての道を歩まれるための予告というより、ヨハネのバプテスマは、神の意志にかなったことで、誰もが謙虚に受け入れるべきことで、神の意志に服従しながら生きていく信仰者のあり方を示された

ものでした。そこでヨハネはイエスにバプテスマを授けました父の御心をしっかりと受け止めて行動されるイエスは、パウロが「かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順」(ピ<sup>ロ</sup>2:7-8)で「すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかった」(ヘブル2:17)と告げられたイエスを私たちは見させていただくのです。

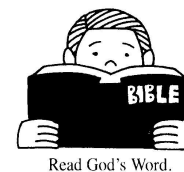
なすべきことをなされたイエスに、奇跡が起こりました。その時「天が開け、神の御霊が鳩のように下っ」来るのをイエスをご覧になりました。ヨハネもまたそれを見て、イエスが神の子であることを知った(ヨハネ1:32-34)としています。「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」との声が天からありました。私たちはこの天来の声を通してこのイエスが、神からのお方であることをさらに確かにされることでした。

先に、イエスー神の最後のことば、ということ語らせていただきました。いろいろな方法を通して神さまはご自身を啓示され、その御心を示してこられました。人間は悟ることが出来ませんでした。最後に神さまは、御子ご自身を送られ、その思いを伝えられました。しっかり私たちがイエスを受け止めることが出来なければ、私たちは滅びるのみです。私たちも「正しいことを行う」だけです。「正しいこと」とはパウロが好んで使った「義」です。キリストによって与えられ、正しくないものが正しいものであるとみなされることによって、私たちの信仰による義がそこで初めて生きたものとなるのです。イエスが「なすべきことをなす」といわれたように、私たちもまたイエスを見上げて、しっかりみ言葉を通して、なすべき事をなさせていただき、平安をいただくのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
マルコ 5:1-20 レギオンからの解放

風も波も鎮められたイエスに驚いていた弟子たちは、今や汚れた霊もイエスに従うという事実を見ることになりました。ゲレサ地方に來られ、舟を下りられたイエスを迎えたのは、レギオン(悪霊の大軍)にとりつかれた狂人でした。憑かれた霊から逃れたいと苦悩している男を、イエスはしっかりと見つめられ「汚れた霊、この人から出て行け」といわれました。悪霊は抵抗しましたが、その人から追い出され、いやされました。それは驚くべき出来事でした。豚が全滅したと聞いてやって来た住民は、悪霊に憑かれていた男が、正常になったのを見てさらに驚き、この地から去ってくれるようにと頼みました。

何か変ではありませんか。正常な生活を取り戻せたのに不安になる、住民たちの気持ちをどう受け止められますか。この地を去られるイエスについて行きたいと申し出た男に言われた言葉は、この出来事のメインでしょう。



次週の聖書・説教

マタイ 4:1-11 退け、サタン